

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	0991000118		
法人名	医療法人社団 湘風会		
事業所名	グループホーム ピオニー		
所在地	栃木県大田原市山の手2丁目13-31 (電話) 0287-46-6082		
評価機関名	特定非営利活動法人 アスク		
所在地	栃木県那須塩原市松浦町118-189		
訪問調査日	平成22年2月9日	評価結果確定日	平成22年3月17日

## 【情報提供票より】(平成22年1月20日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 20 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤2人, 非常勤8人, 常勤換算8人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2階建ての2階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の 経費 (月額)	光熱費	18,000 円
敷金	無		公益費	10,000 円
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	1月当たり 35,000 円			

### (4) 利用者の概要(平成22年1月20日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名		
要介護3	6 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	78 歳	最高	89 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	益子クリニック、山の手歯科医院
---------	-----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設して2年目となり、職員は、「利用者が好む生活、その人らしい役割を大切にしたい」「外出の機会を増やしたい」と入居者主体の支援を行うことを具体的に述べている。そして介護の質を高めるための努力をしている。例えば、施設内研修である「ピオニー勉強会」など積極的な取り組みも始まっている。勉強会で「認知症に対する対処法を学びたい」という言葉からは職員の意気込みが感じ取れた。入居者は穏やかで、職員は働きやすい職場であると感じているので離職がなく、入居者と職員の馴染みの関係もできている。主治医への受診は基本的に家族が行っているが、看護師も出来る限り同行し主治医との連携を深めている。同行できない時は文書でのやり取りを行い、確実に主治医に入居者の状態が伝わるよう配慮している。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の後、職員から「鍵をかけないケアを模索する」「自由に、日常的な外出の機会を増やしたい」「お布団を一緒に干すなど利用者さんの日常生活でのかわりをもっと増やしたい」等々具体的な提案が出されている。実際に買い物に行くなど日常的な外出の機会を増やしている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	自己評価は職員全員で取り組み、管理者がまとめ、施設長が点検している。全職員が評価の意義を理解し、定例の職員会議において改善点を積極的に出すようになってきている。自己評価、外部評価の結果を受け、課題の改善に取り組んでいることは評価できることである。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
重点項目	運営推進会議は、併設の小規模多機能型居宅介護施設「みずばしょ」と合同で開催している。昨年の外部評価の結果を報告し、その中で具体的に、外出の機会を増やすよう求められた。その点は職員会議等でも検討され、改善に向けて努力している。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
重点項目	行事・外出の様子も含めた入居者の日常の様子は家族にお便りで知らせている。持って来てもらう物品の件や健康状態の変化などその他の連絡は直接電話で行っている。家族から苦情・不満が寄せられたことは無いが、もし苦情や要望があった場合は、管理者の判断で直ぐに現場で対応する。それ以外は、朝の申し送りや、定例ミーティング、カンファレンスの場で検討される。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	自治会に加入することで、入居者といっしょに回覧板を回しに行く、納涼祭などホームの行事に地域の人に参加するなど地域との関係ができつつある。納涼祭、人形劇、オカリナ、ギター演奏などは、地域の人を通して1階にある併設の小規模多機能型居宅介護施設「みずばしょ」と合同で行うので、グループホーム単独より地域の人と交流する機会が多くなっている。

## 2. 評価結果（詳細）

		は、重点項目。			
外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆっくり」「いっしょに」「楽しみながら」という理念を掲げ、地域の中でその人らしく安心して暮らしを続けるため、柔軟な支援を行う地域密着型サービスに近づく努力をしている。		職員は、「利用者が好む生活、その人らしい役割を大切にしたい」「外出の機会を増やしたい」と入居者主体の支援を行うことを具体的に述べている。是非、現在の理念を補強し、地域の中で生活を支える職員の実践の拠り所となるような事業所独自の理念への展開を期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「ゆっくり」「いっしょに」「楽しみながら」と掲げられている理念を念頭に日々の支援を行っている。例えば、朝起きて食事をとる時間も移動するのも急かさないう、本人のペースで「ゆっくり」とした支援に努めている。また、入居者と職員が「いっしょに」地域の中に入っていき機会を増やしている。そして、お茶の時間の話題は「楽しい」内容となるよう心がけている。この様に日々の実践は理念を意識した支援となっている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入することで、入居者といっしょに回覧板を回しに行く、納涼祭などホームの行事に地域の人に参加するなど地域との関係ができつつある。回覧板で届けられる市の広報は、入居者にとっては読み慣れたものであり、表紙の写真から話題が広がることもある。納涼祭、人形劇、オカリナ、ギター演奏などは、地域の人が通ってきている併設の小規模多機能型居宅介護施設「みずばしょう」と合同で行うので、グループホーム単独より地域の人と交流する機会が多くなっている。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価は職員全員で取り組み、管理者がまとめ、施設長が点検している。全職員が評価の意義を理解し、定例の職員会議において改善点を積極的に出すようになってきている。「鍵をかけないケアを模索する」「自由に、日常的な外出の機会を増やしたい」「お布団と一緒に干すなど利用者さんの日常生活でのかわりをもっと増やしたい」等々具体的な提案が出されている。昨年との大きな違いである。</p>		<p>自己評価、外部評価の結果を受け、課題の改善に取り組んでいることは評価できることである。職員の積極性を活かし、更なる改善を目指すことが期待できる。</p>
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は、併設の小規模多機能型居宅介護施設「みずばしょう」と合同で開催している。昨年の外部評価の結果を報告し、その中で具体的に、外出の機会を増やす事が求められた。その点は職員会議等でも検討され、改善に向けて努力している。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市が主催する大田原市サービス事業所連絡協議会の地域密着型部会の活動が充実してきている。地域密着型サービス事業所間で行われた施設見学会は、実施後にアンケートを取るなどして効果を検証している。市からは、制度変更やスプリンクラー設置の申請等に関してなど必要な情報が適宜提供され、事業所の安心につながっている。</p>		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>行事・外出の様子も含めた入居者の日常の様子は家族にお便りで知らせている。職員の異動は特別知らせていない。持って来てもらう物品の件や健康状態の変化、薬の管理に関することなどの連絡は、看護師である計画作成担当者が直接電話で行っている。日常的に金銭管理を行っている入居者はいないが、誕生日にデパートで買い物をする時、家族の了解の上で金銭管理の支援をすることがある。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	15	運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口には家族から苦情や不満が寄せられたことは無いが、もし苦情や要望があった場合、現場での対応で済む時には、管理者の判断で直ぐに対応する。それ以外は、朝の申し送りや、定例ミーティング、カンファレンスの場で検討される。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動事例は、1階にある併設の小規模多機能型居宅介護施設への転任で、異動後も顔を合わせるため入居者へのダメージは無かった。職員の離職を最小限に抑える工夫が特別あるわけではないが、入居者が穏やかで、手助けをしてもらえることもあり働きやすい職場であると職員は感じている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修として「ピオニー勉強会」が開催され、勉強会の予習シートで事前準備の上、参加する積極的な取り組みとなってきている。外部の研修に参加した職員による「高齢者虐待について」のテーマで伝達勉強会なども行われている。しかし、事業所として人材育成のための研修計画を立てるまでには至っていない。		非常勤パートも含めた職員の質の向上に向けた事業所内外の研修の機会を作るなど改善されてきている。今後、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、質の向上に積極的に取り組んでいる職員の思いに運営者が応えることを期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大田原市サービス事業者連絡協議会の地域密着型部会の活動が始まり、職員がそれぞれの施設を見学し、交流する機会が持てるようになった。様々な情報交換をする中で、職員のやる気や積極性を引き出すなどの効果が出てきている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p><b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b></p> <p><b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b></p>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居者は利用開始時には新しい環境に不安を感じているので、できるだけ安心して過ごしてもらえるような環境作りをしている。特に落ち着いて休めるように、今まで使用していた寝具を持ってきてもらうなど、安心して眠れる場所作りを大切にしている。その他、アルバムや使用していた食器なども持ってきてもらうようにしている。また、お笑い番組や音楽を聴くことでゆったりとした気分で過ごせるように配慮している。</p>		
<p><b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b></p>					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>食事の準備・片付け・食器拭き・洗濯物たたみなど、入居者一人ひとりが出来ることを行っている。食事の後には、他の入居者の食器を片付けたり声をかけたりするなど、お互いに協力し合う姿が見られている。</p>		<p>家族から出来るだけ自分で出来ることをさせて欲しいとの要望もあるので、今後も一人ひとりの能力を活かした支援が出来るようにしていただきたい。</p>
<p><b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p> <p><b>1. 一人ひとりの把握</b></p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居の相談の時点から、生活歴や本人が何を望んでいるかなどを家族から聞いている。本人の思いや希望を和やかな雰囲気の中で聞き取る方法の一つとして、孫や愛犬などの入ったアルバムを持ってきてもらうなどしている。計画作成担当者は、出来るだけ入居者と話をする機会を作り、思いの把握に努めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>サービス担当者会議は家族が参加できるよう家族の都合に合わせて開催していることから、殆どの家族が参加し積極的な意見が出されている。家族からADL低下防止のために歩かせて欲しいとの希望があり、居室から遠いトイレを使用することによって歩く機会を増やしている事例がある。また、本人がお金を持つことで安心するという家族からの要望があり、計画書に盛り込んだ事例もある。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は6ヶ月ごとに見直されている。体調の悪化が見られ計画の変更をしようとしたところ、緊急に入院することとなってしまったため介護計画の変更には至らなかった事例がある。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>家族の協力を得て自宅に外泊に行き、気分転換を図るなどしている。また、建物の1階部分が同法人の小規模多機能型居宅介護施設となっていることから、散歩の帰りにお茶に立ち寄ったり、お互い行き来し交流を図っている。</p>		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居前からの主治医に継続して診てもらっている。通院介助は基本的に家族が行っているが、看護師の資格を持つ計画作成担当者も出来る限り同行し、状態の報告をするなど主治医との連携を深めている。受診に同行できない時は手紙を書くなど文書でのやり取りを行い、確実に主治医に入居者の状態が伝わるよう配慮している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居時に医療ニーズが高くなった場合の利用は出来ないことを口頭で説明している。実際に、医療ニーズが高くなった時点で、家族の希望もあり在宅に戻って終末期を迎えた方がいた。職員間で終末期に関して話し合った結果、ホームで出来るだけのことをするにしても、現在の体制で支援できる範囲を見極めることをまず検討課題にすることにした。</p>		<p>終末期に関しては、本人・家族共に不安に思っていることである。終末期は主治医や協力病院との連携が不可欠であり、研修や話し合いの場を設け、ホームで出来る範囲をしっかりと定め、本人や家族に提示することが望まれる。</p>
<p><b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない</p>	<p>トイレ誘導の際に職員は、出来るだけ直接的な表現で声かけをしないで、それぞれの排泄パターンの把握やサインを見逃さずに誘導できるように取り組んでいる。入浴の際は、特に女性には肌の露出を少なくするように配慮し介助するようにしている。個人の記録類は、食堂に設置されている大きなテレビの奥のスペースで食堂からは見えないよう保管されていた。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>昼食前の嚥下体操やリハビリ体操は毎日行っているが、入居者のその日の気分に合わせて散歩に行きたいときには一緒に外に出かけるなどして過ごしている。入居者が自分の気持ちを表現できるような雰囲気作りを心がけている。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>これまでは入居者に手伝ってもらいながら手作りで食事を作っていた。しかし、調理に費やす時間を入居者と過ごす時間に振りむけたいとの理由で、メインの2品については近隣の魚屋で作っている惣菜を届けてもらって利用したり、週2回は、調理済みの物を温める宅配を利用したりしている。そのため、買出しの量が減り、入居者と一緒に買い物に行けるようになった。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日実施しているが、その人の既往症やその日の体調に合わせて長湯にならないようにしたり休浴日を作るなどして健康面に気をつけている。また、通院などの外出前に入浴し清潔にしてから出かけてもらうようにしている。着替えている姿を見られたくないという女性の入居者があり、男性職員に代わって女性職員が介助するなど配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	おやつの中の黒い羊羹を墨だと思ひ、湯のみ茶碗の中で墨を擦る動作をしていることから、入居者が書道に興味があることが分り、書道をする時間を作った。裁縫がしたいとの希望には、同法人の別の事業所ですでに取り組んでいる刺し子の見本を借りるなどして、簡単なものから始めた。		
25	61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	前回の評価の結果を受け、外出をする機会を増やしていこうと取り組んでいる。入居者全員で、大田原ふれあいの丘や与一の里などに出かけている。市の広報誌にお笑いライブの開催案内が掲載されているのを見て、入居者から「行きたい」との意見が出されるようになった。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施設が2階にあり、階段も幅が広く急勾配なので、転落防止のため階段入口とエレベーターに鍵をかけていた。現在、職員からも鍵をかけないケアへの取り組みが提案され、施設長、管理者、計画作成担当者、リーダーで検討し、エレベーターを使った出入りを試行中である。		鍵をかけないケアの実践の取り組みが始まったところである。全ての職員で十分に話し合い、検証を重ねて、より良い方法を見いだして鍵をかけないケアを実践することを期待したい。
27	71	災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設施設と合同で定期的に行う消防訓練では、消防署の協力のもと、消火器の使い方や避難訓練の指導を受けている。職員は普通救急救命講習も受講している。地域の人に対して災害時の協力をお願いを再度行う予定である。		施設は2階にありエレベーターを利用しているが、災害時はエレベーターが使用できないことも予想されるので、具体的な避難誘導路を検討する必要がある。様々な時間帯を想定し、特に夜間は職員だけの誘導には限界があるので、日ごろから地域の人や警察署、消防署などと連携をとり、職員と入居者が一緒に訓練を繰り返すことが求められる。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面のマ					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る</p>	<p>一人ひとりの食事摂取量を記録し、おおよその栄養摂 取量を把握している。水分補給は3回の食事、10時、3 時、入浴後等におこない、不足していないか日勤の リーダーが確認している。食事や水分摂取状況で不安 がある場合は看護師に報告し対応するようになっている。 食事は職員が入居者の好みを反映して作っていた が、今年度から栄養バランスを損なうことなく献立の一部 の調理を外部に委託して、入居者とかわる職員の 余裕を作り出している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関、階段の踊り場、テーブルなどに季節の花を生け て季節を感じさせている。ホールや廊下の壁には利用 者の描いた絵や写真、みんなで歌う歌詞等が飾られて いる。食事スペースとは別に、テーブルと椅子を置いて、 入居者同士が話しをしたりくつろぐことができるコー ナーがある。浴槽、脱衣所は家庭的な造りで、浴室入 口には段差があるが、手すりが設置されるなど安全の 工夫がされている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている</p>	<p>その人の部屋であることを理解してもらうために、入居 時に使い慣れた筆筒や寝具、テレビ等を持ち込んでい る。その後も随時家族から入居者の興味のあるもの を持って来てもらうように依頼している。若い頃の写真な ど本人にとっての思い出を部屋に飾っている。</p>		